

言わしてごしない EPISODE 10

ホタルノヒカリ

毎年、この時期になると各地からホタルの話題が聞こえてくる。

一時は農業や生活廃水による河川の汚染が進み、数を減らしていたが、最近では浄化や保護運動の機運の高まりか、数が増えてきて我々の目を楽しませてくれるのはうれしい限りである。

ホタルの飛ぶ姿をみていると不思議に思うことがある。小さく風が吹けば飛んでしまうようでも結構しっかりとしていることもあるし、意志を持つように木々の葉っぱの裏でじっと耐えていたり。また、群れて飛ぶ様子は上質なイルミネーションのようである。こうした姿は様々な感動を与えてくれるし、心を清らかにすることが出来る。

この時期、青年中央会にとってのもうひとつの話題は卒会である。そして今年も数多くの卒会生を送り出すこととなった。卒業の寂しさというのは残る現役メンバーにとっては、まだ感じず、8月例会の頃になって実感するのではないだろうか。丁度、学生時代に先輩たちを送り出し、新学年にクラブで先輩たちがいないことで戸惑うようなところに似ている。

かつて故 岩坂OBは青年中央会を寺子屋と言われた。その寺子屋の卒業にはやはりあの歌、「蛍の光」が一番似合うのではないだろうか。時期もそうだが、卒会してゆくメンバーと目の当たりにするホタルの光が与える感動が同質なものに思えるのは私だけだろうか。

この文章のタイトルは少し前の流行歌「夜空ノムコウ」を洒落てみた。この歌の最後はこういう歌詞である。
『夜空の向こうには、もう明日が待っている』

(ペンネーム・ムジーク)

ホントに最後！ 原案：はむたいら 中央承りーラえい リロードッド



おかえりなさい♡ おわり

モルタル足立の目玉通信

昨年、鳥取県の絶滅のおそれのある野生動植物をリストアップしたレッドデータブックとつりが発刊されました。すでに絶滅種から絶滅危惧種(数ランクに分けられる)にいたるまで大変多くの種が掲載され、私達の身近にいたはずの生き物が多く取り上げられていることに驚くばかりです。環境問題が問われて数十年、今では私達の意識の中にも自然環境の大切さは十分に浸透し、いろいろ環境改善がなされてきています。しかしながらこれだけ多くの種が絶滅に瀕しているというのは自然生態系への悪影響がまだまだ進んでいる証拠であり、私達の目に見えない自然界のメカニズムが壊れつつあるという事ではないでしょうか。動物が自然に生息できる環境は私達の生活にも大きな恵を与えてくれます。その恩恵を真剣に考え、生態系の保全をしなければなりません。野生動植物には生きる力はあっても生き延びる知恵はなく、それでも細々と生き延びています。人間には知恵がありますが、すくなくとも生き延びる手助けは出来るはず。何としても自然生態系を守り、絶滅だけは避けなければなりません。ちなみに鳥取県希少野生動植物の保護に関する条例があります。中でも特定希少野生動植物の指定種(41種)は捕獲、採取はしてはなりません。ぜひレッドデータブックとつりをご覧になって頂きたいと思えます。きっと考えさせられますよ。



平成15年度通常総会のご案内
とき 平成15年7月15日(火) 18:30~
※(18時30分には総会を開催致します。早めにお越しください)
ところ ホテルサンルート米子2F(高砂の間)
※お車でのご出席はご遠慮下さい。

新旧役員会報告
新旧役員会が平成15年7月1日(火)、ピアガッセに於て開催されました。当日の主な議題は、次の通りです。
(1) 15年度通常総会提出議案審議件
(2) 8月例会の件
(3) トライアスロンボランティアの件
(4) その他

ハンサム6月号記事の訂正
5月例会報告の記事の中で、臨時総会の議長を小椋副会長と掲載しましたが、釜田副会長の間違いでした。訂正してお詫び致します。

※この紙は再生紙を使用しています。 ※環境に配慮した「大豆油インキ」を使用しています。

勝負 支所長 主査 合 議 区分
自己との戦い 要は人なり 「想いを形に」
2003.7 No.187
発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 門脇浩二 編集責任者 夏野慎介 印刷所 東京印刷株式会社

6月例会報告

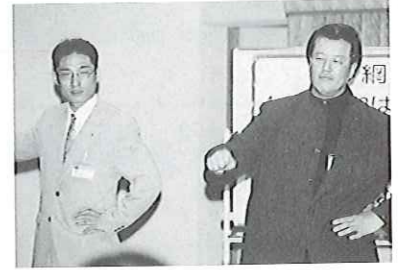


まず門脇会長より、門脇丸寄港に際して一年間の苦勞と次年度への希望を静かに、そして熱く語られた。続くトライアスロンタイムでは堀田OBにもお越し頂き、以前活動された皆生トライアスロン協議委員会で進めてこられた「西部青年中央会とトライアスロンとの関わり」について協議してこられた当時の苦勞話などを話された。締めは当然、土井会員指揮のもと「やるぞ！やるぞ！やるぞ！」の大合唱。メンバー一同が高ぶるものを感じる。
～今年度委員会報告ならびに次年度委員長報告～

一年という短くも長い「勝負」を続けてきた各委員長による委員会報告。感極まってるか、少し言葉を詰まらせる委員長もおられたが、一様に自分なりの達成感を持った、晴れやかな顔をしておられた。会場からのヤジ(!?)や拍手の強さが各委員長の「かたち」に対する賞賛である。

次年度浜田会長の、出港に際しての熱い思いに呼応するように、次年度各委員長が抱負を語り、まさに「やるぞ！やるぞ！やるぞ！」。当然にその思いは会場にいたメンバー全員へ伝心するものとなったことは言うまでもない。

(松本 政彦)



OB交流会



中央会に入会して約1ヶ月、初めてのOB交流会に出席させて頂きました。場所は先日オープンしたばかりの全日空ホテル、建設業に携わっている私は新しく出来た建物を見学することが好きなのですが、この日は初めてお会いするOB会員の方が大勢居られた為に、緊張してしまうように見学することができませんでした。

交流会では門脇会長、各議員の皆様の笑いを交えながらのご挨拶で始まり会全体が盛り上がり始めたところで乾杯となります。私もこの雰囲気に乗じて多数のOB会員の方々に御挨拶して廻りましたが、励ましの言葉をかけて下さった方や仕事の件でお話して頂いた方が居られました。とてもありがたいことだと感じております。そして、会社の経営に携わっておられる方々に私のことを知っていただける良い機会だと思えました。少し高い会費ではありましたが、私にとっては有意義な時間となったことは間違いありません。

そして中央会とは自分から積極的に参加して色々なことを吸収していく場ではないかと思いました。次回もOB交流会があれば参加させて頂きたいと考えています。

最後になりましたが、当日私の為にアドバイスして下さいました現役会員の皆様、ありがとうございました。

(平田 和久)

OB交流会に参加して

6月14日(土)、午後7時より全日空ホテルで行われましたOB交流会に初めて参加致しました。諸先輩方と挨拶をさせて頂き、又話しをする機会を作って頂いた事に大変感謝しております。

4月に中央会に加盟してから委員会や打ち上げ等すでに5回例会に参加致しました。その度にみんながくつろいだ雰囲気の、もちろんはじめをしっかりと持った中で楽しそうに会話をしている姿に良い会に入ったなと感じておりました。

OB交流会で、OBの方々がまた楽しそうにくつろいで話をしている姿に、この雰囲気は中央会ならではのものではないかと感じました。自分も、末席ながらこの会の仲間入りをしたということは、大変に光栄なことだと感じております。

自分を中央会に紹介して下さいました土井一郎会員と山根委員長に感謝しております。

このOB交流会が今後も続いていきますようよろしくお願い致します。また続けていきますよう頑張ります。

(木下立己)



平成14年度トライアスロン皆生大会にむけて

今年度門協会長の下、3期目のトライアスロン実行委員会を立ち上げ、実行委員長の任に就きました。そして、12名の仲間とともに半年間にわたり協議を重ねてまいりました。

振り返ってみますに、昨年は時の実行委員会や数年前からの執行部の配慮もあって従来とは違う組織でのトライアスロン参加となりました。良かった点・悪かった点いろいろあったと思いますが、それはあくまでも試行錯誤の結果ではなかったかと思われま。今年度は昨年の実績をふまえて、さらに意義のある取り組みが出来るようにエイドステーションの責任団体への復帰をお願いして大会当日を迎える予定であります。

また、今回第23回大会は「ボランティア、原点への回帰。」をスローガンに掲げ、ボランティア部とマラソン部ならびに中央会団体ボランティア部のいわゆる「中央会トライアングル」が形成できるよう常に意識しております。何にも増して一番大切なことは、それぞれの部が持てる力を100%発揮し、全会員同一の満足感・達成感を共有した上で無事に大会を終えることだと思っております。

会員の皆様、大会当日は一致団結して心地よい汗をかき、「西部青年中央会ここにあり！」ということを地域発信していきましょう。門協会長も私も先頭に立って士気を鼓舞するつもりです。



実行委員長
岩田 慎介

What's中央会 第11回 バッチの謎2

6月号ハンサムに掲載した、TSCとは何の略か？という記事でTOTTORIKEN SEINEN CHUOUKAIの頭文字であると、ある正確な筋からの情報として採用したのであるが、ある会員の中からタレコミがあったのである。20周年の記念誌の裏表紙に、「違う横文字が書いてあーで」と言うものであった。その情報のもと色々な方に聞いてみるのだが、なかなか真実がわからない。そこで、今年度の委員長交流会で知り合った、東部の山本会員に依頼して、当時TSCのバッチ作成に携わった東部のOBに聞いて頂いたのである。そして本当の意味がやっとわかったのである。

- T...TOTTORI (鳥取)
- S...SOCIETE (社会・会社) フランス語
- C...CENTRALE (中心の・主要な) フランス語

(小原 伸夫)

6月度委員会報告

- きずな委員会**
平成15年6月7日(土)、8日(日)
於：愛媛県松山市ほか 出席者/14名
内容/卒会生送別会兼委員会打ち上げ
- 情報メディア委員会**
平成15年6月7日(土)、8日(日)、21日(土)
於：愛媛県松山市ほか 出席者/11名
内容/①情報政策提言書最終報告
②打ち上げ
- 政治行政委員会**
平成15年6月13日(金) 於：ホールサムインかいけ 出席者/10名
内容/委員会打ち上げ打ち合わせ
- モラル委員会**
平成15年6月11日(水) 於：海潮園 出席者/14名
内容/①委員会まとめ
②卒会生送別会兼委員会打ち上げ

- 国際交流委員会**
平成15年6月6日(金) 於：海潮園 出席者/14名
内容/卒会生送別会兼委員会打ち上げ
- 経営委員会**
平成15年6月9日(月) 於：米子食品会館 出席者/8名
内容/①打ち上げについて
②「てんびんの詩」ビデオ観賞
- 広報委員会**
平成15年6月3日(火) 於：ビッグシップ第2会議室 出席者/9名
内容/①ハンサム7月号担当割
②委員会報告・卒会寄稿文集作成について
③6月担当例会について
④打ち上げについて
- 総務委員会**
平成15年6月6日(金) 於：ホールサムインかいけ 出席者/15名
内容/①通常総会打ち合わせ
②1年間のまとめ

萬谷式 激ダイエット道場(短期集中連載 後編)

～これは道場主 萬谷正明先生の激しいダイエットの記録である～

前月のあらすじ

写真に写った自分の姿にショックを受けた萬谷氏は、独自に編み出したダイエットを開始した。過激なダイエットを続けていたが、ある日夫婦で就寝していると、とんでもないことが起こったのである！

(ある夜の出来事)

ある日の夜、奥方は耳元でする妙な声で目がさめた、耳をすますと、となりで寝ている萬谷氏が、過激ダイエットの苦痛から、

「腹減ったあ～～」

と寝言を言っているのがであった。この寝言はダイエット中何回にも及び、そのうるささにたまりかねた奥方が、

「たのむから食べてごせ！」

と哀願するほどであったという。また、当時の某県会長候補(H15.7.10現在)？からも、減量のよる顔色の悪さから、

「おまえ糖尿じゃね～か？」

と真顔で心配されたりもした…。



(萬谷氏(写真右)、左の人物は本文に関係ありません)

(中央会諸氏に贈る)

萬谷氏は、自らのダイエット体験を通じて、中央会諸氏にこう語りかける。

「太っててもいいけど、『体内脂肪』だけには気をつける！」

「体内脂肪」は「体脂肪」と違い、臓器についている脂肪のことで、これが付きすぎると非常に危険らしい。

ちなみに、中央会会員でベストなのは野嶋会員らしいが、「チョンマゲ」がなければもっと理想的な男になるとのことである。(ワーストは怖くて書けません…)

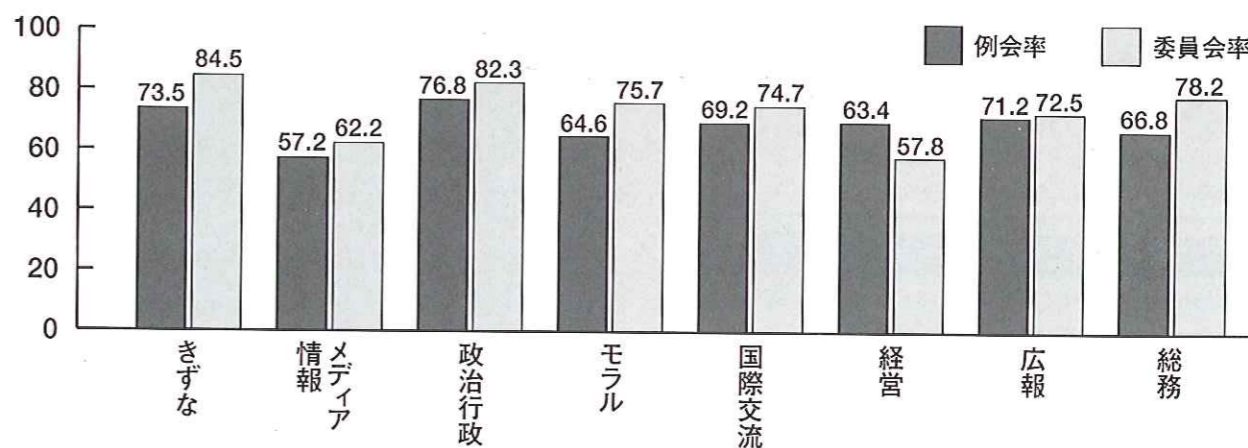
(終わりに)

萬谷氏の激しいダイエット取材して感じたのは、氏が「戦っていた」ということである。ダイエットはあくまでもその手段であるにすぎない。取材中氏は、「妥協して(途中でやめて)目標を達成しなければ一生心残りになる」と語っていた。これを「たかだかダイエットで大ききだ…」と感じる方がいるかもしれないが、ここまで目標に対してひたむきになれる人はそんなに多くはないと思う。

「ダイエットは人生に通ず」そんな確信を得た取材であった。

(ダイエット緊急取材班)

平成14年度委員会別年間出席率



皆勤賞

松本英樹、山根宏典、後藤公平、畠山広幸、山城克己、武海 章、後藤秀之、門脇幸一、中原浩二、中本高夫、野口 学、河端明彦、桶村清子、小原伸夫、植田寿雄、松原 毅、水 康徳、北口智明、堀江則夫

精勤賞

岩崎康朗、潮 邦夫、太田修一、田中英治、夏山裕一、浜田一哉、野川誠司、堀田 一、土井裕次、岩崎俊和、多賀彰穂、福庭貴志、松浦光善、内田和也、中島太郎、平新武志、渡辺一徳、加藤典史、花園直樹、尼子 健、小椋崇永、後藤太良、清川博敏